

平成 30 年度 第 1 回平塚市総合教育会議 議事録

開会の日時

平成 30 年 11 月 29 日（木）10 時 00 分から 11 時 20 分まで

開会の場所

市役所本館 3 階 302 会議室

会議の構成員

市長 落合 克宏 教育長 吉野 雅裕 教育委員会委員 水谷 尚人 同委員 荒井 正博
同委員 目黒 博子 同委員 林 悦子（欠席）

関係部課長等

学校教育部長 今井 高司 教育指導担当部長 川崎 登 社会教育部長 高橋 勇二
教育総務課長 中戸川 泰彦 学校給食課長 戸塚 清 学務課長 西ヶ谷 秀樹
教育指導課長 工藤 直人 教職員課長 岩田 裕之 教育総務課教育総務担当長 関野 良真
同課企画担当長 斗澤 正幸 学校給食課給食担当長 山口 洋一
教育総務課教育総務担当主査 藤井 恒平

事務局

総務部長 柏木 道之 行政総務課長 宮崎 博文 同課行政管理・統計担当長 石川 亜貴子
同課同担当主査 大木 真音 同課同担当主事 沼田 敬輔

傍聴人

4 人

会議概要

次のとおり

1 開会

【総務部長】

お待たせいたしました。これより、平成 30 年度第 1 回平塚市総合教育会議を開催いたします。本日はお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、協議・調整事項、報告事項以外の部分について進行を務めさせていただきます総務部長の柏木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

会議を始めるに当たりまして、配布資料等を確認させていただきます。まず、次第と名簿がございます。それから、資料 1 の 1 といたしまして「外国語教育が変わります！」でございます。それから、資料 1 の 2 といたしまして、「AET 等他市町の状況」。それから、資料 1 の 3 といたしまして、横版の「AET 授業時間及び授業比率について」、そして、最後に資料 2 といたしまして、「平

塚市中学校昼食検討委員会報告書概要版」でございます。過不足はございませんでしょうか。はい、ありがとうございます。

なお、本日は、報道機関の方が、傍聴にお見えになっております。記者に限りまして、撮影を許可してよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、開催に当たりまして、教育委員の変更がございましたので、御紹介をさせていただきます。10月10日に田中千勢子氏が任期満了により退任されました。10月11日からは後任として目黒博子委員が就任されております。

それでは、目黒委員から御挨拶をお願いいたします。

【目黒委員】

御紹介いただきました目黒博子でございます。よろしくお願いいたします。

私は小学校教員を38年間務めてまいりました。教育委員になりまして、これまでの学校現場での経験、それから、期間は短かったですけれども、子ども教育相談センター、こども発達支援室くれよんでの経験を基に、更に視野を広く持って務めていけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【総務部長】

どうもありがとうございました。

なお、林悦子委員につきましては、本日、所用により御欠席ですので、お知らせをいたします。

次に、市長から御挨拶申し上げます。

2 平塚市長 挨拶

【市長】

皆様おはようございます。

本日は公私とも大変お忙しい中、平成30年度第1回の平塚市総合教育会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様には、常日頃から、子どもたちの健全な成長、また、平塚市の教育行政の充実発展に対しまして、多大な御尽力をいただいております。改めて御礼申し上げます。どうもありがとうございます。

いよいよ11月も残すところあと1日になりました。いよいよ師走がやってくることとなります。昨年は12月7日からインフルエンザで学級閉鎖が小学校で始まっております。そろそろ各学校でも子どもたちの健康にも一層配慮しなければいけない時期になるのではないかと思っております。天気速報等によりますと、この冬は暖冬傾向だと思いますけれども、やはり冬は寒い日がたくさんあるのではないかと思っております。

そういう中、今年は、小学校の普通教室にエアコンを配備させていただきました。これを上手に活用してもらい、快適に子どもたちが安全健康に冬を乗り越えてくれたらと思っております。

さて、今日の協議・調整事項につきましては、2点あげさせていただきます。

まず、1点目は英語教育の充実です。社会のグローバル化の進展に伴いまして、様々な人と外国語でコミュニケーションを図れる実力を付けること、これはこれからの子どもたちにとって大変重要なことだと思っております。特に2020東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、

特に海外からの訪日客もあります。また、御存じのように平塚市はホストタウンとして、北欧のリトアニア共和国との交流が活発に行われているところで、子どもたちも海外の人たちと接する機会が多くなるのではないかと思います。そこで、授業の中での取組はもちろん、子どもたちのためにどういうことができるのか、何ができるのか、ぜひとも皆さんの御意見が頂けたら有り難いと思っております。

それから、2点目は、中学校の給食について取り上げさせていただきます。これにつきましては、昨年8月に「平塚市中学校昼食検討委員会」から報告書を受け取らせていただきました。これまで、平塚市の教育行政につきましては、校舎の耐震化、また、先ほども申しあげましたけれども、エアコンの設置を中心に行ってまいりました。教育環境の充実におおよそめどが立ちましたので、次は、中学校の完全給食、これを大きな課題として認識しております。そのことにつきましても、委員さんからいろいろな御意見を頂き、意見交換をさせていただければ有り難いと思っております。

本日の総合教育会議ですけれども、未来への礎を築く教育のまち平塚、この実現に向けまして有意義なものとなりますよう、ぜひともいろいろな意見を頂きますようお願い申し上げまして御挨拶に代えさせていただきます。

【総務部長】

ありがとうございました。

それでは、次第の3でございます協議・調整事項に移らせていただきます。ここからは平塚市総合教育会議設置要綱第3条の規定に基づきまして、進行を市長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

3 協議・調整事項

【市長】

それではここからは、私が進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。まずレジメの1英語教育の充実につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【教育指導担当部長】

それでは、私から英語教育の充実について、御説明させていただきます。

小学校では、2020年度から、3・4年生で年間35単位時間の外国語活動、5・6年生で年間70時間の教科、外国語が始まります。今年度、来年度の2年間は、それに向けた準備をする移行期間で、3・4年生で年間15単位時間、5・6年生で年間50時間の外国語活動を実施しております。

多くの小学校教員にとって、英語を指導するに当たっての不安材料は、大きく二つあります。一つは、授業をどのように組み立てていけばよいかという指導方法への不安、もう一つは発音など自分自身の英語力への不安です。

教育委員会としては、新学習指導要領全面実施に向けて、小学校教員のこうした不安を軽減しつつ、英語指導力の向上を図れるような支援体制が必要だと考えております。具体的な支援として、授業経験の少ない教員でもすぐに授業で活用できるプランを作成し、配付をしております。

また、教員の指導力向上のため、講師招聘研修や、英語教育推進リーダーによるサマー研修、授業づくり推進員による公開授業を実施しております。さらに、児童・生徒が英語に触れる機会を充実することと併せて、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、学級担任が外国人英語指導者いわゆる AET とともに指導を行えるよう、AET を増員し、訪問時数を昨年度より拡充しました。

また、教員の英語力向上を図るために、放課後や夏季休業中に、AET による教員向けの研修を実施している学校もございます。先生方も、外国語活動の授業力を高める努力をしていますが、AET の訪問時数が増えることで、特に、小学校では AET 中心の授業になってしまうという現状もございます。

子どもたちにとって魅力ある授業を実践していくためには、子どもの実態を把握している指導者が、工夫をしながら授業を展開していくことが必要です。教育委員会としては、今後も教員の不安を減らしていく取組を継続するとともに、子どもたちにとって楽しく魅力ある授業を、教員自身が作っていく、又は AET とともに作っていく体制を構築していきたいと考えております。以上になります。

【市長】

ありがとうございます。教育指導担当部長から英語教育のこれからの進め方、現状の課題、特に小学校教員の皆さんの不安とか、その辺をお話いただきましたが、いかがでしょうか。

【教育長】

只今、川崎教育指導担当部長から、新学習指導要領の改訂に伴い、2020 年度から小学校の英語教育が変わるという話がありました。では、なぜここで小学校の英語教育を充実させるのか、それは市長もおっしゃっていたように、グローバル化が進展している現状に対し、今までの学校教育ではなかなか身に付かなかった使える英語を子どもたちが習得し、また、小学校から大学まで一貫した英語教育を実施することで、子どもたちが英語を自分のものにする、そんな考えから出てきたものと思います。

さらに、英語を学ぶことで人間として豊かで幸せな人生を送ることができる。例えば、グローバル化が進む中で、海外の人と友達になりたい、幅広い情報や知識を得たいと思ったとき、英語が身に付いていればそれが可能になるわけです。そして、2020 東京オリンピック・パラリンピックが開催されることも、英語を学ぶ動機付けとして大切にしていきたいと思います。

私自身、英語教育が本当に重要だと思った経験を、つい最近しました。今年の 10 月、リトアニア共和国に教育視察に行った時の話です。最初に行ったカウナス市には、日本語の通訳がいましたが、アリートゥス市に行ったときは、そのような方がいませんでした。ですから、アリートゥス市長と話すときは、まず市長がリトアニア語を話し、それを英語に通訳する方がいて、更にその英語を日本語に直す方が必要でした。つまり通訳が二人いないと私まで話が届かないわけです。もし私が英語を理解し話すことができたのならば、通訳は一人で済んだわけです。英語をもっと勉強していればよかったと思うと同時に、英語はやはり世界の共通語なんだなとその時に感じました。

それから AET についてですが、平塚市では今年度 2 人増員いたしました。小学校のほとんどの

先生方は、英語の教員免許も持っていませんし、小学生に対する英語指導を専門的に習ってきた方もおりません。よって、今回の AET の増員はとてもありがたかったという声を現場の先生からもいただいているところです。

授業中、担任の先生が一生懸命に英語で話している。あるいは担任と AET が楽しそうに英語で話している。子どもたちはそんな場面を見て、いったいどんな話をしているんだろうという興味を持ちます。また、子どもの学びに合わせて、聞く活動から入り、相手が言っていることを推測しながら理解する態度を大切にされた指導を行う。そんな授業展開を小学校の先生方は心掛けています。

平塚市には様々な国から来た AET がいます。その AET とコミュニケーションを取ることが子どもたちにとって重要となります。小学生の段階では、いろいろな国の人とふれあい、世界には様々な文化があることを学び、また外国語で伝え合うこと、言葉でつながることの楽しさや豊かさを体験してほしい。そういった意味で、AET の存在は欠かせないものとなっています。

さらに、異なる言語や文化に触れながら、体験的に違いを受け入れようとする態度を大切に、言葉やものの考え方や習慣が違う人でも、特別な存在ではなく同じ人間である、そんな人権的な視点も AET との触れ合いの中で気付いてほしいと思っています。

【市長】

ありがとうございました。

教育指導担当部長からのお話、それから、今、吉野教育長からのお話の中で、グローバル化する社会で、英語教育の大切さ、使える英語、また、人間として豊かになるため大変必要であるというお話でした。異文化、異なる言語に触れて、実際に体験することで、大変豊かな子どもが育っていくことができるというお話でした。そういうお話も含め、御質問でも結構ですのでいかがでしょうか。

【水谷委員】

ありがとうございます。

先ほど、部長からもお話がありましたが、私はたまたま小学生と中学生に娘がいますので、AET に関してすごく嬉々として授業を聞いています。その中で、あまりにも AET に頼りすぎると、先生が作り上げた特色が失われるというか、難しい面があるというお話がありました。それほど先生たちが不安を持っているのであれば、全部 AET を使ってもよいのではないかと思います。そうすると質の問題も出てくるのでしょうか。それとコストの問題もあると思いますが、その兼ね合いのニュアンスを教えていただけないでしょうか。

【教育指導担当部長】

今、AET と担任の先生との授業での兼ね合いの御質問ですが、やはり、小学校の担任の先生は、学級担任制ということで、子どもたちのことを一番分かっている、一番身近にいるその先生が、その子どもたちにあった授業を工夫しています。AET ですと、その時間、その時間の関わりになるので一人一人の子どもたちの特性というのをなかなか理解できず、もしかすると表面だけの授業になってしまう可能性もありますので、やはり、心を込めて、授業を行う大切さと重要さは、や

はり担任の先生ならではと思っております。

【水谷委員】

ありがとうございます。

今みたいところ、私は、正に多様性だと思っていて、世の中に出るといろいろな人がいることを多少知っていくことがあっても良いのではと感じています。多分、その辺も子どもは見透かすだろうし、そうすると、AET 自身が努力しなくてはいけないと思う瞬間が生まれるのではないのでしょうか。

先ほど、教育長も市長もグローバル化の話をされましたが、グローバル化するから英語をしなくてはいけないと、少し受け身な感じがしまして、それよりも、私は以前に話したかもしれませんが、コミュニケーションが本当に大切だと思っているのと、世の中には常識は無数にあるということを知ることが非常に大切だと思っております。特に、今この時代ですので、職業柄、毎日、英文のメールも普通に来ますし、私がちゃんとしゃべれるかと言ったら、あまりしゃべれないのですが、売り込みもあるし、相談事もあるし、英語に接する時代になっています。そういう意味では多少受け身でもと思う反面、先ほどの AET の先生もそうですし、いろいろな人が世の中にはいると知っていく子どもたちが、この人、何でこんなこと思うんだろうとか、何でこうなっているんだろうかということに関心を持つと、自分から英語を勉強したくなるのではないかと感じております。

たまたま、自分事ですが、運よくというか、娘がどうしても行きたいと言うので、全然知らない家にホームステイに行かせましたが、それから英語が好きになりました。どうしてかというとなかなかしゃべれなかったのもっとしゃべりたいという欲が生まれた。そういう欲が自然に生まれてくれば良いと感じております。そのコミュニケーションを取るにも、読み書きとして、話す、ちゃんと聞く書くというのはベースとしてあるので、その辺をきちんとやっていかなければならないと感じております。正に、いろいろな多様性がこれから生まれる中で、もっともっと英語に対する欲を持って、それが多分、自分の幅を広げることだと学んでくれるきっかけにつながればと感じております。

【市長】

水谷委員、ありがとうございました。

グローバル化だけでなく、自分から接してみたいというような、世の中にいろいろな考え方があり、世の中そういうものでできているという、そういう興味から入ってもらって、一生懸命英語を覚えよう、そうすればもっといろいろなことが広がって行くと、そういうところにつなげていけたらというお話でした。

荒井委員、お願いします。

【荒井委員】

今、国会でも外国人労働者について審議されていますが、確実に外国の方が日本に住むことが多くなると思います。また、観光客や留学生も非常に多くなっています。それで、英語の必要性

というものは前から言われていますが、全国どこでも子どもから大人まで、ある程度の会話ができれば、いろいろな面で役に立つのは重々承知しています。しかし、新聞では30年前に比べて日本の英語力は落ちていると。その辺は疑問だったんですが、今月16日に教育委員の学校訪問ということで、神明中学校で授業参観をして、先生方と懇談会を持ちました。そこで英語の授業が行われていて、昔に比べて今はいろいろな機器を使いながら、プロジェクタなど、発音にしても生の英語を話しているのを見て、非常にいいと思いました。また、その後の懇談会でも英語の先生方と話したときに、やはり小学校に英語が入ってきて、数年前から何が違うのかということに対して、発音がやはり違うということでした。でも、学力とはどう違うのかということ、そこは本人のやる気とかいろいろなことがあるということでした。

また、今月26日に学校長との懇談会で中原地区の小中の校長先生方と懇談会を持ちましたが、そこでも英語の教育が小学校の低学年から入って、5・6年生で教科になると、いろいろ現場として準備はしていますが、難しいとのことでした。実際に負担としては、小学校は専門の英語の先生ではなく、担任が教えますから、何教科も持っていて、それに英語が加わるので、大変だと思いました。とにかく先生方の数が少ないと言われてます。当然、今、お話ししたようにAETの方も参加されますが、やはり最終的には担任の先生が評価するのではないかと思います。それで思ったのは、映像の資料とかを整える必要があるのではないかと。また、教材づくりや教員養成にも時間は必要だということで、立ち上がったばかりですから、もう少し長い目を見た方がいいのではないかと思います。

ですから、英語の専門家の助言が必要だとか、協議を進めていくことはいいことだと思いますし、小学校低学年の英語教育の開始に当たっては、子どものために、指導していく先生方のために、よりよい環境を整えてあげることが大事だと思いました。

【市長】

ありがとうございました。

確かにAETの配置等々でも、実は教育長を始め教育委員会ともいろいろな話は進めているところですけども、それだけでなく、小学校の中での教科化という中での環境整備はしっかりやっていくべきではないかという荒井委員のお話でした。

ありがとうございます。

【目黒委員】

先ほどから、コミュニケーションとか、AETと担任との関係とか話題が出ておりますが、現場に居たものとして感じていることを少しお話させていただきます。

英語は数多くあるコミュニケーションの手段の一つではないかと思います。子どもがAETに英語と身振りや手振りを加えて、自分の想いを何とか伝えようとし、分からなくても諦めずに、推測して理解しようとする。そういう経験を積み重ねることが、コミュニケーション力につながっていくと考えます。そして、それが伝わったとか、分かったとか、達成感があれば、英語は楽しいとか、もっと話したいとか、先ほどお話にありましたが、伝えたい、分かりたいという意欲につながってくると思います。小学校の教員は、子どもたちがそんな思いを持って、中学校に進学してもらいたいという願いを持ちながら、日々、努力していることと思います。

現在、AET の授業は年間の授業時数の半分で、あとは担任が授業をしているところですが、実際に子どもたちの様子を見ておきますと、AET の授業をととても楽しみにしている子どもたちはたくさんおります。ただ、AET の意図が分からずに、すごく緊張している子どもがいることも確かです。そういう子を支援する、また、英語嫌いにしないというためにも、子どものことをよく知っている担任の役割はとても大きいとっております。

そして、担任の授業と AET の授業がうまく関わりあってこそ、充実した学習になると思いますので、子どもの状況を理解している担任が主体的に取り組んで、AET の授業を効果的に使っていくということが大切であると考えております。

そのためにも、更に力のある AET を派遣していただくことと、先ほどもありましたが、担任の指導力向上に向けての支援を更に厚くしていただけたらと思います。ただ、現実的には学校の中で担任と AET との打合せがなかなか取れないという状況もあります。また、荒井委員からもお話がありましたように、小学校の担任は、全部の教科の教材研究や授業の準備をしなければいけないということで、新たに英語も入ってくると更に大変ということになってきます。ここで、担任ではない専科の教員がいれば、AET との間に入って、連携もしやすいですし、担任への支援もできますし、また、指導内容も更に充実してくるのではないかと思います。

英語の専科教員を配置している市町もあるということですので、支援の一つとして御検討いただければと思います。よろしくお願いたします。

【市長】

今、目黒委員からは、小学校の現場の先生の声も含めてお話が有りました。私もお話しの中で、一番気になったのは、英語嫌いにさせないことです。我々は受験英語ではないですが、文法があつて、主語、述語があつて、This is a pen から始まりました。私も実際に外国といろいろな交流をするときに本当に片言しかできないのですが、気持ちの中から、普通に英語ができるようになれば普通に気持ちを伝えることができるのにとおります。我々の時代には勉強としての英語みたいなところがありましたけれども、もうそういう時代ではないのかと。正に、我々の時には、英語嫌いという言葉が結構ありましたが、もうそういう時代ではありません。本当にナチュラルに英語に触れて親しまれて、本当にいろいろな外国の理解も含めて接することができる環境づくりを小学校から行い、英語嫌いにさせないで育ててもらふことが必要かと思つた。

それから、目黒委員の話の中でもありました、力のある AET を効果的に使うこと、もう一つセンター職員というのですか、地区に英語の専門教員を置いて、地区を回ってもらふ、その辺の考え方はいかがですか。

【教育指導担当部長】

まず、AET の質というところでは、やはり AET の会社の中でも、研修を積んで、一つの授業を AET 皆で見ながら、意見交換を交わすという、そのような形での質の向上をやっていただいております。

また、二つ目の専科ということですが、英語に限らず、やはり、特に 5・6 年生は 2020 年で 70 時間、今よりも一人の担任の先生の授業時間が増えます。そうすると今よりも 70 時間分負担が増えますので、英語の専科にとらわれずに、一人一人の先生方の負担軽減ということで、できれば

英語に限らず、何か専科の教員を配置することによって、その時間を少しでも軽減できるよう検討させていただいております。

【市長】

専科の教員の配置等については、国と県等の制度として、具体化しているのでしょうか。

【教育指導担当部長】

70 時間増えることによって、教員の定数を増やすという話は、国では出ておりません。ただ、先ほど申しましたように、市費として、臨時の職員を増員するというので、教育委員会の中でも少し検討を進めているところです。

【市長】

私からいろいろな話をして申し訳ありませんが、私も就任後直ぐに、AET の授業が始まった頃に伺わせてもらったときに、子どもたちが最初から最後まで全部英語、何も日本語はなしで、色はこうだよとか、子どもたちの興味付けとか、私が行ったときの英語指導者の方は上手い方かもしれませんが、子どもたちに英語に慣れ親しんでもらう形の授業を見させてもらいました。これは素晴らしいと思ったことが一つです。

2020 の英語教育改革では、先ほどの繰り返しになりますが、教育長を始め、民間と連携をして、AET の数を増やしていきたいとのことですが、予算のこともあります。本来は、国や県が制度として、しっかりと支えてもらうような、これから日本をしょって立ってもらう子どもたちのために、しっかりとした予算付けをしてもらい、マンパワーとして付けてもらえると本当に有り難いと思います。平塚市としては、英語に何とか親しんでもらうため、AET のネイティブの英語にどれだけ触れる機会を増やしてもらえるかなど。

恐縮なんですけれども、今年のオリンピック・パラリンピックのテストキャンプの時に、リトアニアから首相が来てくれました。その時に、たまたまですが、平塚に外務大臣がおられるので、外務大臣と一緒に対応して、いろいろなお話をしました。河野大臣は英語がペラペラでお話することができますが、そういう中で、私自身も思いましたが英語自体を目的として学んでいくのではなくて、英語で理解をしていけるような、英語を学ぶではなく、英語で学ぶ、そういう社会を作ってくれれば、大変有り難いです。そのために、我々、行政、こちら側としては何をしたらよいか、一緒に考えていきたいと思っています。

それから、リトアニアの公用語はリトアニア語ですけれども、リトアニアに行かせていただいた時に学校を何校か見させてもらいましたが、とても英語教育に力を入れていて、英語を通して国際的な理解だとか、環境を詰めていきたいとか、そういう思いがとても強いところでございました。英語教育については、平塚も交流の中ではチャンスだと思っています。

先日、リトアニアの小学生 3 人が来て、港小学校に行き、いろいろ交流してもらいましたけれど、そういう交流の仕方も大変楽しくやってもらったと報告を受けています。2020 オリンピック・パラリンピック、リトアニアとの交流、そういうものを通して子どもたちに、異文化もそうですし、言語もそうですし、そういうチャンスだと思っていますので、これをなんとか力にしていきたいです。

先ほど、荒井委員さんからもお話が有りましたが、我々としては慌てないけれど、きちんと子どもたちが学ぶ環境づくりを、子どもたちが英語に触れるための環境づくりをしっかりとしていきたいと思ったところでございます。

その他、何か、ありますか。今、リトアニアの件が有りましたので、教育長からリトアニアの小学校の紹介をしてください。

【教育長】

今年の10月14日から20日まで、リトアニア共和国へ教育視察に行ってきました。今回は現地、本市とカウナス市との協定書、本市教育委員会とカウナス市教育資格センターとの協力や交流に関する確認書、そして本市港小学校とカウナス市パネムネ小学校が、引き続き教育交流を進めていくパートナーとなることを記した宣誓書のそれぞれに署名を行うことができ、視察の大きな目的の一つを達成することができました。

リトアニアでは、7つの学校を訪問しました。最初に訪問したパネムネ小学校は、校内が明るくきれいで教室も広く、施設や設備が充実していると感じました。ただ、平塚市の小学校と違うところもたくさんありました。まず日本のように大きな運動場がありませんでした。また、廊下がなく、教室同士がつながっていました。ランチルームがあり、子どもたちはそこで昼食を摂るのですが、昼食の時間以外でもおやつというのがある、そこでもこのランチルームが使われているようでした。

教育課程も日本とはだいぶ違う印象を受けました。しかし、日本の教育はレベルが高いという認識があり、日本の教育について是非学びたいという姿勢をリトアニアの先生や教育資格センターの方々から感じました。

また、アリートゥス市のヨードビングギムナジウム校にお邪魔した際、かねてから予定していたインターネットビデオ通信機能である「スカイプ」による生徒間交流を、土沢中学校と行うことができました。体育館に集まった土沢中学校の全校生徒が、色画用紙を使った人文字で、3色できているリトアニアの国旗を表現し、その姿がモニターに映し出されたとき、ヨードビングギムナジウム校の生徒たちが一気に盛り上がり、日本語で「あーりがと」と大きな声で感謝していました。その姿を見て私たちも大変感動しました。このスカイプによる交流は、今回の訪問における大きな目的の一つでもありましたが、両校の子どもたちの様子を見て、今後の新たな交流の手段になりうると確信しました。

そして、先ほど市長からも話がありましたが、私たちがリトアニアから日本へ帰って間もなく、パネムネ小学校の校長先生と教員1人、そして3人の子どもたちが平塚に来て、港小学校の子どもたちと交流をしました。体育館でボッチャをしたり、林間学校でカレーを作って食べたり、お互いに楽しい時を過ごすことができたようです。

AETもそうですが、子どもたちが外国の人たちと直接、または媒体等を通してふれあうことがいかに大切であるかということが、リトアニアとの交流を通して実感したところです。

【市長】

すみません。急に振りまして。

今、教育長からお話が有りましたけれども、よく2020オリンピック・パラリンピックでレガシ

ーを作るといってお話が有りますが、私は、施設だけじゃなくて、施設よりもリトアニアと子どもたちの交流のいろいろなつながりの中で、将来子どもたち、市民の皆さんがいろいろな関係、連携をして、人としていろいろな広がりをもてるような環境作りをしていくことが、これが正にレガシーではないかと思っております。お陰様で平塚リトアニア交流実行委員会を、市民サイドの皆さんに作ってもらい、いろいろな団体に関わってもらって、進めておりますけれども、特にこれから平塚の将来を担ってもらう子どもたちには、ぜひ、こういうチャンスというか、きっかけに、いろいろな所に目を向けてもらい、英語に慣れ親しんでもらって、英語でいろいろな事を考えてもらい、英語で世界の人たちと渡り合える、話ができる、そういう環境づくりを進めていきたいと思っております。

その他は、いかがですか。

【水谷委員】

リトアニアの話は、正に本当にいい機会だと思います。特に、子どもたちが、リトアニアのチームというか国の代表団の人が来なければ、100人いたら、多分1人か2人ぐらいしかリトアニアのことを知らないでしょう。しかし、それを知った時点で大きいですし、知ることによって、どんな国なのか、どんな人がいるのかと関心を持つことになります。お互いの母国語が違うときは世界ではどのようにするのかというと、基本的に英語で会話することになっています。先ほど市長がおっしゃいましたけれど、グローバル化では英語は不可欠なものですし、その興味関心を加速させてもらえるといいかと思えます。

例えば、学校で1年に1回はリトアニアの日にしてもらい、リトアニアのことを考える日設けて、特定な人が触れ合うのではなくて、みんなが触れ合える空間、考える空間もあればと思います。この年に愛知県も立候補していたのですが、フットサルのワールドカップがリトアニアで行われます。多分、そのつながりも出てくると思うので、いろいろと面白いと感じております。

【教育長】

水谷委員さんがおっしゃるとおり、平塚市がリトアニア共和国と事前キャンプの協定を結んだからこそ、平塚市の子どもたちはリトアニアのことをこれだけ知ることになったのではないかと思います。協定をきっかけに、土沢中学校では総合的な学習の時間でリトアニアのことを取り上げ勉強することになりました。そんな縁もあって、リトアニアの選手団が平塚市に来たとき、土沢中学校を訪問することになったわけです。訪問した選手のみなさんに子どもたちは、英語で学習した内容を伝えました。また、綱引きや琴の演奏、ゲームなどを通して交流を深めました。選手団は子どもたちに大人気でした。子どもたちにとって本当にいい経験になったと思います。それが今回のヨードビングギムナジウム校と土沢中学校とのスカイプによる交流につながったのではと思います。

私がヨードビングギムナジウム校を訪問したとき、図書室を見せてもらいました。図書室には日本のコーナーがあって、日本人の作家の本が置いてありました。私が訪問した他の学校にも、日本語で書かれた掲示物が張ってあったり、日本の着物や桜のことを授業で学習しているクラスがあったり、リトアニアの人たちの日本に対する関心度は高いと感じました。

今回は7つの学校を訪問させていただきましたが、先ほど紹介したパネムネ小学校と違うとこ

ろがたくさんありました。廊下のある学校もありましたし、黒板や教室の形態、校庭の様子なども違いました。また伝統を重んじる学校だったり、地域と共にある学校だったりなど、学校の目指す方向も違いました。そういった意味でも、それぞれの学校が自校や子どもの個性を大切にしている日々の教育活動に取り組んでいるといった印象を受けました。

【市長】

それでは、英語教育について、これからの平塚市の取組について、各委員さんからいろいろ御教授いただきましたので、私としては、また教育長としても、教育委員会としても足りないところは頭に入れて、進めていきたいと思っております。

それでは、時間もございますので、次の中学校給食についての議題にいきたいと思います。

まず、中学校給食について、事務局から説明をお願いします。

【学校教育部長】

それでは、中学校給食の取組と現状等につきまして、御説明させていただきます。中学校給食あるいは昼食につきましては、平成 23・24 年度に検討委員会が一旦開催されました。この中では、「中学校給食は、多額の財政負担を伴う施設整備、あるいは大規模改修、子どもたちの安心安全に関わることより優先して行うことはやや難しい」という結論がなされ、これを受け、現在では、いわゆる平塚方式と呼んでおります「業者弁当販売」を行っているところでございます。

しかしながら、前回の検討から、5 年が経過をいたしまして、更に毎年 7 月に行っておりますアンケート調査、こういったものの中でも、給食を望む声が確実にみられていたこと、市民からの要望も一定数あること、こうしたことから、平成 29 年度に「平塚市中学校昼食検討委員会」を設置いたしまして、中学校の昼食の在り方について検討し、今年 7 月に報告書をまとめさせていただいたところです。

そして、この報告書の中では、中学校給食を実施する際の課題の整理を行い、他の自治体への視察や市民アンケートを実施し、その結果、「検討委員会が考える望ましい昼食のスタイルは、生徒全員が栄養バランスに配慮した昼食の提供を受けることができる共同調理場方式である。」と結論がなされました。

この報告書については、8 月に検討委員会の委員長から、市長及び教育長に対し提出がなされているところでございます。以上でございます。

【市長】

はい、ありがとうございました。

学校教育部長から、これまでの中学校給食についての、流れや取組状況について話がありました。私からは、この 9 月議会に質問がありましたので、その流れを委員さんに説明させていただきたいと思っております。

最初に、平成 23・24 年度に行った検討委員会の中では、先ほどの繰り返しになりますけれども、いろいろな学校の、校舎も含めて整備が必要でありましたので、まずはそれをやらせてくださいということで、進めました。実は私、就任した時に、校舎がすごく古くなっていて、いろいろな所を見させてもらった時に、特に印象的だったのは浜岳中学校の真ん中の校舎だったと思っております。

けれども、雨がちょうど降った日ですが、廊下にバケツが並んで、もしこの状況の中で子どもたちの勉強に支障があったら大変だと、まず、安心安全も含めて、校舎のいろいろな大規模改修とか、まずは勉強する環境づくりにお金を使わせてもらいたいということで、それを具体的に進めさせていただきました。これまで、毎年、億単位で改修にかかりますが、小学校2校中学校1校を中心に、校舎、それから体育館等の改修をさせていただき、お陰様で耐震は全ての学校に行うことができました。

そのようなことがあり、その間、何も手をこまねいたということではなくて、平塚方式という中で地元の民間の業者の方たちに栄養バランスも考えてもらいながら、家庭の弁当と併用して、朝に頼んでも昼食を摂ることができる平塚方式というものをやり、デリバリーは採用してこなかったわけです。ここで5年が経過して、校舎ですとか、エアコン等もここで入り始め、方向性も見え、ある程度の教育環境の充実が図られました。次は、調査をしてもらった中で、様々な働き方、社会構造、生活様式が変化している中で、多様な観点から学校における昼食の重要度が大変増してきています。先ほども経過もありましたけれども、4月に中学校昼食検討委員会で話をまとめてもらい、8月に私と教育長で検討委員会から報告を見させてもらいました。

学校教育部長からお話があったように、検討委員会の望ましい昼食としては、生徒全員が栄養バランスに配慮した昼食の提供を受けることができる共同調理方式であるという報告をいただきましたので、9月の議会において議員さんの質問に、「中学校給食は共同調理場方式による完全給食を実施したい」、これからしっかりと取り組んで実施をしていきたいと答弁、表現をさせていただいているところでございます。

このような経緯も含めて、各委員さんから、それぞれお考え等ありましたら、お話をいただけたら有り難いと思います。

【荒井委員】

完全給食については、神奈川県は全国で一番低いというお話を聞いています。ダントツに低いと。でも、ここで市長さんが完全給食を実施したいと、大英断だと思いますので、もう少しその理由を詳しくお聞かせ願いたいということ。また、共同調理場方式ということですが、提供方法としては、様々な選択肢があると思います。なぜ共同調理場方式が一択なのかということをお聞きします。

【市長】

今、荒井委員さんのお話ですけれども、繰り返しになってしまいますが、本当に大きな課題がありました。これは、給食をないがしろにしていた訳ではないですけれども、まずは、勉強する環境が整っていたと言えば整っていましたが、古くなってきて、子どもたちに安全安心という面からも危ないところがありましたので、そちらに大規模改修ですとか、トイレの改修ですとか、いろいろなこともさせていただいてきて、計画的にできてきたいということで、一定の目途が付いたことが大きな理由でございます。

それから、教室のエアコン設置についても、去年は実は本当に暑い日が続いて、この暑さも災害みたいなものだということで、思い切って計画をしましたけれども、教育長さんをお願いして前倒しというか、全小学校の普通教室に設置させていただきました。来年度中に、中学校の普通教

室へのエアコンの設置整備の計画をしていますので、トータルとしてそういう子どもたちが勉強できる環境づくりという整備については目途が付いてきたのがやっぱり大きな理由です。

もう一つ、先ほどお話しましたが、いろいろな働き方、お母さま方の働き方もそうですし、こういう時代ですけれども子どもの貧困ですとか、朝ご飯を食べられない子どもが増えているとか。実は、平塚の組織の中に、子ども・子育て推進会議というのがあり、教育委員会にも入ってもらっていますが、その大きな柱の一つとして、貧困の連鎖を断つということがありますけれども、例えば、一日の栄養価としてしっかりしたものを食べさせてあげなければいけないとか、いろいろな社会環境の状況の中で、中学校給食というのが、大変重要であるということがクローズアップされてきました。

荒井委員さんのお話でもありましたけれども、神奈川県は、実施率が低かった訳ですが、他の市町村はいろいろと取り組んでまいりました。それから、もう一つ、隣の大磯町さんはデリバリーというものをされました。教育長、それから教育委員会の皆さんと話していますが、いろいろな弊害が出てきてしまったので、失礼なんですけれども、私はやるんだったら、やはりデリバリーではなくて、身近なところでご飯を作って、温かいおかず、主食、それから牛乳をしっかりと提供ができる体制づくりが必要ではないかなということで、今回、そういう判断をさせていただいたということでございます。

【荒井委員】

ありがとうございます。

エアコンにつきましては、本当に全国に先駆けて設置して、それ以降、他の市町村でも取り組んでいることで、非常に良かったと思います。

昨年も同じように、給食については議題に上がりましたが、その当時は、お母さんの弁当とか、そういうことも大事ではないかとお話したかと思いますが、財政に余裕があれば、私も賛成だと思っています。最近の傾向としては、やはり今、市長がおっしゃられたとおり、働くお母さんが増えて、なかなか弁当を作れなくて、子どもの環境もいろいろ事情が変わって、食育も含めて完全給食はとてもいいことだと思っています。

ただし、非常にお金がかかることですので、平塚市全体の財政のことも考えて、取り組んでいただきたいと思っています。以上です。

【市長】

共同調理場方式というのは、検討会でも、今の平塚市の現状に見合ったベターな方法として共同調理場方式を上げてきてもらったことでもありますので、私としては、その意見を尊重して、これから進めていくことが、財政的に効果的な予算のかけ方も含めて、いいのではないかと考えているところです。

【水谷委員】

前々回の会議で、給食はどういう人が、どれくらいの強さで望んでいるのですかと聞いたと思いますが、改めて、昨年度、アンケートを取られたのを聞いてみると、その時代の要請でそうならざる、そういう風にするのがいいんだろうなと改めて感じました。実際、我が家でも長女が中

学3年生ですが、その弁当を作っている家族は絶対給食がいいと言っておりました。

共同調理場方式というように書かれていますが、共同調理場方式となれば、小学校でやっている東部・北部も老朽化が進んでいて、改修しなくてはならないという話があり、そこで中学校も作るとなったとき、実際、そこで賄えるのですかというのと、施設としてそこを考えていると思うので、その辺のところを教えてください。

【学校教育部長】

現在の東部、北部、それぞれの調理場は築40数年に至ります。建物構造そのものも老朽化が進んでおりますし、施設内の調理機の設備も同時に老朽化しております。当然、これまでも更新はされておりますが、やはり故障が目立ってきたり、いろいろな不具合が発生したりしております。ここは、中学校給食の議論をしていただく場になっている訳ですが、実は我々事務局からいたしますと、その前に小学校で使っている東部、北部について、先に結論を付けさせていただかないと次の中学校の取組に進んでいけない状況もございます。

従いまして、今現在は、東部、北部の在り方をもう一度、しっかりと精査をいたしまして、その上で、東部、北部の今後の在り方と、これから始めようとする中学校の共同調理場のその関連付けというところを今、整理をさせていただこうと、担当部局で準備を進めてまいります。結論的に申し上げますと、現在の東部、北部、敷地もさほど広くはございませんので、ここをやり替えて使っていくことは、やや厳しいかと感じております。

【水谷委員】

ありがとうございます。

良くわかりました。実際、大変な作業がこれからまた生まれてくるということだと思います。でも、皆さんに望まれて、いい方向での確な措置ができたと思います。ぜひ、よろしく願いします。また、配られた概要にも書かれてありますが、生徒全員が栄養バランスに配慮した給食でという、正に成長期の中学生に対するコメントが最後に書かれていました。実際、栄養バランスも大切です。それと、ボリュームですが、小学校の給食を頂くときに、6年生ぐらいだとちょっと少ないのではないかと思います。心身ともに食事は大切なものですので、その辺をケアしながら、平塚らしい、給食が展開されたら、また選ばれる市になるのではないかと思います。

一つだけ、中学校の給食というか、昼食の時間ですが、若干短い気がしております、弁当を持って行っていますが、弁当でその時間だと、給食になると配膳とかで、本当に短くなってしまっているのではないかと感じますので、その辺も併せて考えてもらえると嬉しく思います。

【市長】

今、中学校の昼食の時間ですけれども、現状はどうでしょうか。担当部長。

【教育指導担当部長】

中学校の昼食、お弁当の時間になりますが、学校によって多少の違いはありますが、4時間目又は3時間目が終わった後、昼食に入り、5分の準備の時間から、15分取っている学校。又は、そのまま5分取らずに、20分として考えている学校。更にその後、昼休みという時間に入ります

ので、時間がなくて食べられない生徒がいましたら、その昼休みもゆっくり食べていいですよと、そのような考えのもとで行っております。

【市長】

今、水谷委員さんから指摘がありましたけれども、その食べる時間とか、カリキュラムとか、授業時間をこれからどのように使っていくのか。また、いろいろ教育指導が変わってきている中で、その辺の入れ込み方というんですか、その辺も考えていかないと、中学校の場合、大変かと思えますけれども、いろいろな要素をぜひとも考えてもらい、子どもたちにとって、何がいいのかを検討をしていきたいと思っております。

【目黒委員】

検討委員会の提言の中に、現在、平塚市が小学生に提供している給食と同等の質の高い給食の実施をということがありますが、正しく、そのとおりだと思います。長年、小学校の給食を食べてきた者にとりまして、本当に温かく美味しい、安心安全、栄養のバランスの取れた給食を提供していただいたと思います。退職をして、給食を食べられなくなりまして、改めて、その給食の有り難さを切実に感じているところです。中学校でも安心安全で栄養のバランスの良い美味しい給食の提供をぜひお願いしたいと思っております。

また、給食はバランスの取れた食事の一つの見本でもありますので、食育という点からも本当に生きた教材になるのではないかと思います。ただ、先ほどから話題になりましたけれども、学校現場では新たな課題というものが出てくると思います。先ほど、教育指導担当部長からも話がありましたが、学校訪問をさせていただいて、日課表を見させていただきましたら、昼食の時間が本当に15分、その後、昼休み15分というふうになっておりました。食事の時間が短くて、そこに配膳時間が入ってくると、日課表を見直さなければいけないと思います。教員だった立場から見ますと、やはり休み時間というのは、子どものために確保してあげたいという思いもあります。そうしますと、教育活動にも影響が出てくると思います。

教員の働き方改革も叫ばれている中、実施するに当たっては学校現場における様々な課題をまずは洗い出していただいて、それを解決して進めていく必要があるのではないかと思います。ぜひ、学校現場とよく話し合った上で、進めていただければ有り難いと思います。よろしくお願いたします。

【市長】

ありがとうございました。

繰り返しになりますけれども、いろいろな課題があり、これを学校の完全給食はいいから、ポツとできるかという、現場サイドのいろいろな課題もありますので、学習との兼ね合いとか、いろいろな休み時間も必要だし、生徒の発達の中で大切な部分もありますので、総合的に検討を是非ともしていただいて、我々も皆さんの検討の中で、一生懸命考えて、これから平塚の教育の魅力、それから、平塚市の魅力の一つとして、中学校もしっかりとした給食を出してあげられるような体制は作っていくべきだと思っておりますので、9月の時点で実施に向けてという判断をさせていただきます。

いろいろな状況もありますけれども、県内の取組も含めて、今の課題とか、その辺のところは、詰めていただいていると思いますけれども、その辺のお話をいただけたらと思います。

【教育長】

県内の中学校給食の状況をお話します。平塚市は各自が昼食を持参し、こちらからは牛乳だけを提供する「ミルク給食」を実施しています。また、昼食を忘れてたり、様々な事情で用意できない子どもには、業者の弁当を注文できる「業者弁当方式」という形で昼食を提供しています。

川崎市は、平成 29 年 12 月から完全給食を実施しています。完全給食の実施に伴い、大規模な共同調理場を作りました。平塚市でも見学させていただいたところです。

横須賀市は、完全給食を実施する方針を決定し、全校に配送する「共同調理場方式」とする方向で進んでいます。

横浜市は、いわゆる「ハマ弁」を実施していますが、なかなか利用率が上がらず、1%程度の利用にとどまっております、利用率を上げるために現在奮闘中だそうです。

お隣の秦野市は、2021 年 12 月に完全給食を開始する予定です。市長が「共同調理場方式」で運営する方針を表明しています。

大磯町は、「デリバリー方式」を中止し、現在給食の提供方法について民間に調査を依頼しているようですが、「単独校方式」となることが有力なようです。

寒川町は、「デリバリー方式」を予定していたのですが、それをやめて「共同調理場方式」で実施する方針を掲げたようですが、小学校給食もからめて考えることになり、現段階では未定のようです。

昨今、神奈川県内においても、中学校の昼食事業の見直しや給食の実施に向けた取組を進めている自治体が徐々に出てきています。

平塚市は、先ほどの学校教育部長の話にもありましたが、老朽化した東部と北部の共同調理場の見直しをしていかなければいけないところにきています。仮に東部と北部を合わせ、更に中学校の給食を上乗せするとした場合、約 1 万 6,000 食分の給食が必要となります。先ほど川崎市の施設を見学させていただいたと申し上げましたが、川崎市の共同調理場の敷地は約 9,000 m²あり、そこで 1 万 5,000 食分の給食が作られています。平塚市の給食数もこれに匹敵するわけですから、建設費と土地購入費を合わせると数十億円になることが考えられます。また、初期費用として、これ以外に、受け入れる側の中学校の配膳室や、運搬用の昇降機も必要となります。さらに、共同調理場で実施するとなれば、各小中学校へ温かい食事を配送するために最適な場所を探すこととなりますが、いい場所であればあるほど土地購入費もかさんでくることとなります。

また、昼食の時間も考えなければなりません。現在、市内の中学校では、昼食の開始が 3 校時終了後と 4 校時終了後の 2 パターンあります。配送のことを考えると、そのことも市単位で調整していかなければなりません。さらに、中学校の授業は 1 コマ 50 分で、業間の休み時間が 10 分の学校が多く、仮に 9 時に授業をスタートさせると、4 校時終了時に昼食を実施する学校では、昼食の開始が 1 時になってしまいます。今でも、昼食の開始時間が 1 時近くになっている中学校が多いのが現状です。そして完全給食になった場合、配膳等の準備の時間、片付けの時間がそこに加わってきます。家から弁当を持ってきて、昼食が始まったらすぐに食べ始めて、食べ終わったら「はい、おしまい」というわけにはいかなくなります。昼食にかかる時間が増えると、昼食

後の時間が圧迫されることにもなります。つまり、部活動に影響してくる。冬に入り日が短くなると、ほとんど活動する時間が取れない状況になることも考えられます。よって、各学校では教育課程の編成についても再考する必要が出てくるわけです。

このように、課題はたくさんありますが、今回、中学校昼食検討委員会から、共同調理場方式による完全給食の実施を望むといった提言をいただきましたので、どのような方法が平塚市に合うのかということ、学校現場の声を聞きながら、市長部局の関係課と連携をし、実現に向け丁寧に取り組んでいきたいと考えています。

【市長】

教育長から、課題とこれから、また、他市町村の状況についてお話をいただきました。繰り返しになりますけれども、こういう提言を受け、それから、社会状況も含めて、私としては、なんとか中学校給食を実施に向けて具体的に組みたいと表明し、議会にもお話をしておりますので、是非、いろいろな課題があると思いますが、教育委員会を中心に実施に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

予算を執行する側としては、教育委員さんにも御意見をいただきましたけれども、市長それならどんどんお金をかけてというお話もあると思いますが、実は御存じのように、相模小学校と道一本隔てて神田小学校がありますが、これは全国に無いものでありまして、大神地区の環境事業センターの受入れの大きな条件の一つでもありますけれども、相模小学校を大神のツインシティの区画整理内に平塚市が土地を求めて移していくことを、今、一生懸命学校教育部を含めて進めていただいております、これに対する予算が、莫大にかかってまいります。これがおよそ35億から、それ以上と言われておりますので、予算の目途としては将来負担のこと、いろいろな事を考えて、まずはこれをしっかりとやらしていただいて、その目途がつく中でこの中学校給食の東部、北部をどのようにするかを並行的に考えさせていただきながら、センター方式、共同調理場方式に向けて、何が一番予算執行の中で効率的なのか、プラスなのか、子どもたちの給食に向けての体制づくりができるのかを考えさせていただきたいと思っておりますので、是非とも御理解をいただきたいと思っております。

やるのでしたら、やはり早くやりたいと思っておりますけれども、いろいろな将来のことも含めて、その辺の判断はさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ御理解のほどよろしくお願い申し上げます。それでは、中学校給食についてもよろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。今日は「英語教育について」それから、「中学校給食について」御意見をいただきました。今日の御意見を踏まえて、私としては、平塚が教育も含めて、「選ばれるまち 住み続けるまち」になるために、一生懸命取り組みます。そして、オール平塚で子どもをしっかりと育むことができる、未来を築いてもらう子どもたちのために、平塚のまちづくりをしっかりとさせていただき参考させていただければと思います。本当にありがとうございました。

本日の協議・調整事項の内容は以上でございますが、他に何か委員さんからお話や議題はよろしいですか。それでは、協議・調整事項は終わりたいと思っております。

ありがとうございました。

それでは、総務部長に司会をお返したいと思っております。

【総務部長】

どうもありがとうございました。

それでは、第1回平塚市総合教育会議を終了させていただきます。

委員の皆様におかれましては、本日は大変お疲れ様でございました。

ありがとうございました。